

## 「生命（いのち）の安全教育」実践事例

活動名	「いのちの大切さを学ぶ教室」 「インターネット等における犯罪・犯罪被害防止講演会」		
学校名	神奈川県立寒川高等学校		
学年	1 学年	人数	198 人
日時	2024 年 5 月 1 日（水） ○いのちの大切さを学ぶ教室 11：05 ～ 11：55 ○インターネット等における犯罪・犯罪被害防止講演会 12：05 ～ 12：55		
取扱いの分類	講演会		
講師	いのちの大切さを学ぶ教室 河川 淳一（神奈川県被害者支援センター） 佐々木 みどり（神奈川県被害者支援センター） インターネット等における犯罪・犯罪被害防止講演会 松本 大輔（茅ヶ崎警察署生活安全課）		
学習のねらい	自分自身を大切に、他者理解の気持ちを育むとともに、インターネット等によるトラブルに巻き込まれないため、SNS 等の安全な使い方とマナーについて理解を深め、命の大切さについて理解する。		
内容	【いのちの大切さを学ぶ教室】 啓発用アニメ「1 ニュートンの勇気」を視聴し、暴行を目の当たりにしながら通報できなかった少年の苦痛と、理不尽に日常を奪われた被害少年の姿を通して「携帯電話のボタンを押すのに必要な 1 ニュートン = 100 グラムの力」という言葉を通して、命の大切さを学習した。 【インターネット等における犯罪・犯罪被害防止講演会】 高校生が巻き込まれやすい SNS に関するトラブルについて、具体的な事例を踏まえながら説明があった。また、インターネット上に投稿したことによって自分自身は些細なことでも、大きなトラブルに発展してしまうことがあるため、受け取る人がどう思うか、感じるかなど他者理解に基づいた SNS の利用について学習した。		
成果 （児童・生徒、教職員の感想等）	参加者の感想として「命の儚さ、残された人の苦しみを考えると言葉が出ない。」「SNS は身近だからこそ使い方に慎重になる必要があると感じた。」「SNS のリスクについて考えるきっかけになった。」などがあった。		
課題	カリキュラムマネジメントの観点から、「いのちの安全教育」と各教科の学習内容、グループの活動をより一層関連させていけるよう、講演内容や時期について検討していく必要がある。		
学校全体での取組や工夫 （予定も可）	講演会で終わることなく、授業やホームルーム活動、休み時間等の様々な場面で、生徒とコミュニケーションをとりながら「命の大切さ」について伝えている。		